

部

歌

古 林 先 生 作 詞

1. まや六甲に抱かれて

こころ六甲台の水清し

ちぬの浦和をみおろして

シブキをあげる健男児

2. フリ プレスト バタフライ

バック リレー ボロまでも

凌泳健児の意気高し

いざや競わん腕を無し

3. ああなつかしの水泳部

六甲台のプール辺に

月見の宴で泳ぎやめ

くる夏まっていきりたつ

水 泳 部 歌

作詞 古林喜楽

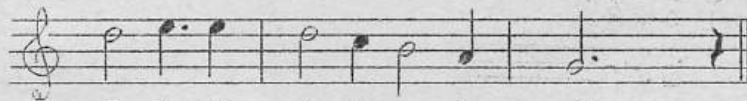
作曲 山田貴彦



1. ま や 六 - 甲 - に い だ か れ て こ こ む こ が お か の
2. フ リ - プ レ ス ト バ タ フ - ラ イ バ ッ ク - リ レ -
3. あ あ な つ か し の す い え い ぶ ろ っ こ う だ い の -



み ず き よ し ち め の う ら わ を み お ろ し て - し ぶ き を あ -
ポ ロ ま で も り よ う え い け ん じ の い き た か し い ざ や き そ
プ - ル ベ に つ き み の え ん で - お よ ぎ や め く る な つ ま -



げ る け ん だ - ん じ
わ ん う で を - ぶ し
っ て い き い り た っ

先輩からの便り

感激のるつぼ

古 林 喜 楽

私にとっては、もっとも思い出の多いドイツにおいて、また、主食のようになっていくビールの本場のミュンヘンにおいて、しかも、自分の大学の学生である田口君が、それに、私に最も縁のある水泳で、十六年振りの金メダル獲得となったのであるから、永らえば、憂しと見しこの世にも、かくもすばらしき目にもあえるものなりの思いであった。

八月三十日、午後七時五分頃であつたらうか。(日本時間は、八時間進めて下さい。)五十メートルのターンで、田口が二、三人に抜かれているのを見た時には、私の息の根はしばし止まった。折り返し七十メートル頃であつたらうか、田口がグッグッと出始めた時には、思わず、頑張れ！ 頑張れ！ とどなった。抜いたと思つたが、最後のタッチが、私の座席からは、盲点になっていて見えなかつたので、さてどうかと案じたが、すぐ左上方の掲示板に、四コース田口の横に一分四秒九WUR(世界新記録)と、

赤い文字が写し出された時には、思わず持参していた我家愛用の大きな日の丸を打ち振って、田口でかしたと怒鳴つた。感激のルツボ、まさにそのままの歓喜のきわみであつた。この瞬間の私の感懐は、文豪ゲーテ、シェクスピアといえども、これを表現することは出来ないであろう。

昨年四月、またしても、学長を引受けざるを得なくなつた時、何の因果か、喜楽という名に名前負けして、この年になってまで苦勞をしなければならぬのか、よくよく私は、苦勞性に生まれついたものだと、広島通いの車の中で、折りふし、別にたいして悪いことをした覚えもないのに、なぜ我一人古来稀なるこの年になってまで、このような目にあわされるのかと、気の滅入る思いをしたこともあつたのであるが、あの感激の場面の暖間に、一生の苦勞が、すべて吹き飛んでしまった。

その晩世界一のピアホール、マテージャーで、大ジョッキをぶち合わせ、祝杯をあげた時には、私はやっぱり、喜楽なんだなあと思つづく思い、妙な名前をつけてくれた、おやじに改めて感謝の意を表したようなことである。

寝言

細田 忠雄 三三年卒 (E六)

十年ひと昔と云うが、卒業して十四年もたつと大学時代の水泳の記憶も朦朧として、細かい事は極めて曖昧となっており、断片的にその場面場面しか思い出されぬが、その中で不思議とはつきりと記憶に残っているのは昭和三十一年(小生三年生)の六甲台プールで行われた、三商大戦の四百米フリーの事である。

確か当時の四百米フリーの大会新は、五分二十四秒で大阪市大の曾和融生君がその二、三年前に出したものであった。

その三商大戦を目指しての合宿は、六甲台プールのすぐ下の合宿所で行われていたが、小生としては合宿では五分二十二秒台が出て居り、実は虎視たんたん大会新を狙っていたものである。

さて試合の前日の夕食后皆様御体験通り、苦しい合宿生活も本日で終った事でほっとする気持と、(勿論流石赤い燈青い燈を指して下山する不逞の奴はいなかったが。)明日の試合へのある程度の緊張感とが入り混り、ごろんと横になって雑談で楽しい一刻を過ぎていた。まあこんな時は大体女の子の話になるが、墮つる話では(実際面も)定評のある松田、山口、岡田諸先輩と石本兄の雑談はともかくとして、岡見君(当時三年バック陣)意外に

純真でしたよ。)が、自分の新しいガールフレンドの事をのろけ出し、あたりかまわず抱きつき奇声を発し、それがすごいすくないの。消燈命令が出て皆静かになった後も、偶々隣りに寝るはめになった小生こそいい災難、ぼそぼそとのろけが続き、あげくの果、余程のろけが楽しかったか、彼女と Date している夢でもみたのか寝言の連続、(岡見君の寝言は有名であった。)、ついに寝言で歌まで歌い出し、夕方以来ののろけ話ですっかり頭に血がのぼっていた純真素朴な小生は、仲々眠つかれず、ついにウトウトしたとたん、た、き起されるはめになった。

翌日の三商大戦はもうふらふら。それでも四百米フリーでは五分二十四秒四で市大の曾和君を振り切り、トップにはなり、応援に来ていただいていた草野先輩に、よくやった、よくやったとプールから引き上げて貰った記憶があるが、前日の岡見君ののろけと寝言の為(と今もって信じている。)わずか〇、二秒で大会新が出せなかった事は、今も三商大戦のニュースを聞く度に思い出す。

現在岡見君は勿論結婚して、(当時ののろけの対象となった女性ではない筈だが)やや頭の頂上がはげあがり、立派な親爺づらをして居るが、当時の純なのろけと寝言を思い出し、現在寝言はどんな寝言をいっているのか、奥方に聞かれてはまずい寝言で、案外油をしばられているのではないかと、いい気味だわいと一人ぼくそ笑んでいる。

現役の部

入部記

法学部一年 北川 敏行

入部記と言っても、もう五ヶ月程たって、涼しい秋風が吹く時節となつてしまった。これでシーズンは終わってしまったが、今迄の事を振り返り、書きたいと思う。

僕がクラブに入ったのは授業が始まった十七日頃で、クラブ一番乗りだった。その特権として先輩のお古をもらったりした。何もその特権を得ようと早く入った訳ではない。大学へ入ってもクラブ（高校の時、少々ハンドボールをやっていたが）に入ろうとして、合格の時から考えていたが、結局このクラブに決めた。決めたからは先んずれば人を制すと思つたのが、計らずも、一番乗りとなつた訳だ。去年は、瓜生さんだったらしい。だから、一年の中では一番多く陸トレもやつたしプール清掃もやつた。クラブへも真面目に（と我ながら自慢できる）やつて来たが、そう思つた程の成果も上らぬ。遅れて入つた奴や、時々クラブに来る奴に差をつけられてゆく。自分に素質がないのではないかと思つたりもしたが、一度入つたからには今から他のクラブへ入つたとしても同じだと思ひ、レギュラーになれなくともいい、二年、三年と

経てば、体も出来て、タイムも伸びると思ひ続けることにした。つらい事もあつたが、先輩の後についていろいろいい目を見ることがあつた。それでまあ、これ迄やつて来られた。

高校のクラブと比較すると大分の違いがある。クラブでの統制力がない。悪く言えば、封建的、良く言えばピリツとしたところが、ないんだ。水泳という個人競技のせいか、横の結びつきも弱いような気がする。まあ個人を束縛するようなクラブではないけど、いと思うが、やはりクラブには個人の犠牲は払われなといけなといと思う。又、時には二週間に一度位、ミーティングなどを開いて欲しいと思う。

何だかクラブの批判するようになったけれど、今のクラブが嫌いなのではない。二、三年の人も好い人が多くいるし（御世辞ではなくて）結構楽しい。毎日、クラブもやらずに、帰っていく奴が可哀そうに思える。時間には不自由するが、少しは充実感も味わえる。色々書いてきたが思つた通りには書けなかつたが、来年の抱負を述べると、

- 今年のベストを切ること。（自分は平泳）
- フリーも練習してポロレギュラーとなること。

プールを想って

川 本 典 子

五月の下旬だったろうか。私が初めて六甲台のプールに出合ったのは……。緑色の濁った水に浮かぶ落葉。そして、一台の汚れた洗濯機が印象的だった。もちろん、良い印象であろうわけはない。

さて泳ぎ始めてみれば、水は汚いだけでなく非常に冷たく、今まで六年間、バスケットばかりやっていた私にとっては、垂直運動から水平運動に急に変わったということもあって、強健を誇る私の身体もまいてしまった。

やがて七月となり、水泳は自分の記録との戦いであることをしみみ感じるようになった頃、私は、この六甲台のプールを何よりも愛している自分に気付いた。人間にたとえれば壮年の男性とも言おうか。溢れんばかりの木々に囲まれた彼は、微妙にその表情を変える。朝の白い光線には物憂く、日中はきらきらと緑を映す。晴れた日はあくまで明るく西から流れる雲が太陽を隠すと、たちまち水の色が濁る。雨に打たれている時の彼は、何か深く思いに沈んでいる様だし、夕立があがったあとのあの鈍い光線の中の彼は、温かな抱擁力を感じさせる。

しかし、何と言っても夕暮れのプールが最高である。練習が始まり、息をはずませ、タイムに一喜一憂し、そして練習が終わって一息ついたころ、太陽は摩耶山に沈みかけ、夕焼けが西の空を染めると、プールは赤と緑とグレーの織りなす錦の中の一模様となる。その配色の美しさ、風立てば波立つ水面のさわやかさは筆舌に尽し難い。

九月。少し赤味を帯び始めた漆が近づく秋を感じさせる。その秋のプールに、私は彼の今までの人生を想う。多くの水を愛する若者の青春の全てを、彼は知っているのだろうか。若者達の泳ぎの全てを、語らいの全てを、迷いの悲しみの全てを、燃やし尽くされた命の全てを知っているのだろうか。秋風に微かに波立つプール。一匹の赤とんぼ。私は、そんな小さい赤とんぼみたいに、フラッとやって来た女の子にすぎないかも知れないけれど……。

白　い　夏

非　詩　人

あの十九歳の夏の事件からのち、あなたは日記を書きはじめた。

1　かりものの生活によいしれるための日記　1
あなたは、日記を書くために生活していた。

それは生きるために生身の血を流すという壮烈な試みだった。

事実 あなたは瞬間 瞬間を生きるために、自分の体の肉をきりとって食べていた。

あなたはそれをイマジナシオンの糧とした。あなたの話すこと、あなたの行動、すべてがイマジナシオンの産物だった。

そしてそれを、あなたは惜しげもなく人々に与えた。あなたは酔いしれていた。

二度目の合宿が終わり、秋のかかりをしのばせた風がプールサイドに吹きはじめたころ、

そのときすでにすりきれて、白痴のようだったあなたの手が、死を感じはじめていた。

秋があなたをおおいかくそうとするころ、あなたは死ぬ。という予感。

あなたの遺書

1 今度こそ ほんとうに 私は死ぬるのだと思いました。

とにかく私は、きりぎりの線でもいつも生きようとしていたのです。その結果はどうでしょう。

肉体も心も無残に引き裂かれ、使い果たされて、奇妙な観念だけが残り残りました。この上は、せめて美しい死に死にたい。

と願います。

1 五月のエメラルドグリーンをしていたプールで、決して模範的ではないし、美しくもない。けれど若さとか、人間らしさに満ちあふれていて、きらきらと光っていたI氏の泳ぎに、わたし

は心を打たれた。

あんな泳ぎはもう六甲台ではみられないのだろうか。

一年生の夏、たった一人で八コースを泳いでいたときのことになつかしい。あのときは、ほんとうにみんながまぶしく見えたものだ。

春合宿、大磯のプールで沈んでしまいそうだったわたしのクロール。

あのころ、確かにわたしは生きたのだ。残された奇妙な観念の私が望むものは、私が生きたというあらゆる証拠を抹殺すること。人々の記憶から私を消してしまうこと。

そうすれば私は、満足して

白い夏に 融けてゆくことができます。

四年目の雪辱

理学部物理科三年 植 西 勝

今日は、六月十八日(日曜日)、今期水球戦の火ぶたを切る。

関西ポロリーグの日である。関西では、現在ポロをやっているのは、神大・立命・市大・阪大の四校だけで、しかも、トーナメント戦なので、二勝すれば、それでもう関西の覇者となり、タオルも十一枚、もらえる訳である。我が神大は、昨年から四年生が、

一人もおらず、従って同じメンバーのまま今年に至ったので、チーム力が下がる道理はなく、更に熊本高校の水球経験者が今日から試合に出られるようになり、充分な練習は出来なかったが、水球の力は上がっていると信じて、意気揚々と市大に乗り込んでいった。出場メンバーは、フォワードが、神大のホープ紫垣(二)、に、藤井(四)、佐敷(三)、印南(三)、藤森(二)、バックが僕と岡本(四)、大曲(二)、キーパーが長谷川(三)、渡辺(二)、という面々である。

試合順序及び結果は、次の通りとなり、神大は第三位であった。

第一試合 神大 1 3 市大

第二試合 立命 1 2 阪大

三位決定戦 阪大 5 3 市大

決勝戦 立命 6 1 4 神大

試合前の予想として、市大に接戦できれば勝てるチャンスがあるかもしれないと考えていたのだが、敵は思っていたよりも、戦力ダウンしており、その力の衰えようは目に余るものがあった。昨年このリーグに初参加した新鋭阪大にも破れ、市大らしさは、どこにもなかった。我々は実に四年ぶりに市大に快勝した後、常勝立命館大にも六一四と健闘でき、まずまずの出来だった。また今年からボロ経験者が三人と増え、各校に脅威を与えていた伏兵阪大は、対立命館戦ではいい所なく破れたが、三位決定戦では俄然動きが良くなり、一方的に市大を下したのである。

さて我が神大勢は、先に書いた通りだが、一回戦対市大戦には、まだ市大の実力がわからなかっただけに、緊張して試合に臨んだのだが、第一ピリオド第一点目が案に入った時、もうこの試合は勝てると思った。事実バックを守っていた僕にはボールが殆んど回らず、敵の陣で試合が終始した有様であった。結局三点を許したが、大対三で軽く、一蹴した。次に出場する決勝戦までには、充分に時間があるので、女子部員室差入れのにぎりめしを頬ばりながら、やれ「市大が弱くなった。」とか、「阪大にすごいのが入って来た。」「立命はよく焼けて黒い。」だのと、雑談しながら、のんびりと観戦役を決めこんだ。そうするうちに三位決定戦も終り、決勝ムードが盛り上がって来た。いよいよ決定戦である。対市大四年ぶりの勝ち戦は気を良くした上昇ムードで、我が神大が一点目を先取したとき、ひよっとしたらタオルを取れるのではないかと、誰もが、ふと考えたに違いない。しかしそれは甘かった。それから立命の執ようなマークに手を焼き、一回戦のようにボールが回らない、チームワークもちぐはぐになってきた。すぐに同点にされ、逆点されてからは、こっちが一点返したかと思うとまた取られるという苦しい試合運びで、ボールも我が陣で回ることが多くなり、バックの負担が重くなったが、敵のフォワードをマークするだけで精一杯であった。また神大が得点した四点のうち三点まで、今度初出場の紫垣がアシストなしで得点したもので、まだまだ練習不足を痛感した次第である。と同時に神大水

球もこれからもっと強くなるであろうと言える。

大阪での試合の後はいつものように北に乗り出し、まずビヤガ
ーデンで一杯、いつになくいい気持ちである。少なくとも僕が水
泳部に在籍してからは、市大に限らず、一度として勝ったことが
なく一年の時などは、常に二桁対一点か二点というスコアで、ボ
ロ負けし、一年生ながらもこれでは、いかんと思つたのを覚えて
いる。とにかく、初の勝試合、対市大四年目の雪辱に上級生は共
通の感慨を持つたことだろう。そのせいか下級生をやたらとひき
まわし、夜の街に消えていくことと相なつたのである。

私は今日まで泳いで来ました

河内のゴロンボ

一、雑 感

水泳部員はシーズンが終ると何か気が抜けたようになって、学
校で会つても生き生きしていない。しかし今年は念願の三部優勝、
二部昇格をはたし、部員も増え、私は何も言うことはない。
良い時期に主将となつたことを光榮に思います。

私にとって来年は最後の年である。この前、新入生として紹介
されたと思つていたので……。すこし寂しい気もするが最後の
年をせめて悔いの残らない様にやりたいものだ。今年は四年生の

方は、いろいろと忙がしくて、あまり練習に来てくれなかったが、
やっぱりキャプテンとして、下級生としては少し寂しい気がした
ので、来年は四年生同志が注意しあつて、全員練習に出ることを
心掛けたいと思つている。

とにかく、いくら泳ぎが速くても、水球がうまくても、神大水
泳部では大した意味はなく、真面目に練習する者が最も重要であ
り、試合の出場もそういう人を優先したいと思つている。練習を
よく休む者に限つて大した事はやつておらず、練習を熱心にやる
者は、他の事にも心を打ち込んでやつていようである。考へて
みれば、練習をたびたび休んで、やる事があるなら、初めから水
泳部に入る事もないと思う。

さて入部して感じたことから書くと、私の一年、二年のころの
水泳部の最大の悩みの一つは、部員不足の問題でした。部員不足
は何も水泳部に限らず他の運動部にも共通する一般的現象であり
ますが、運動部たるからには強くなければなりません。そのため
に水泳部というならば、タイムの良い部員を多く集めねばならな
いということになるでしょう。しかし、神大において新入生の中
から Good swimmer を探すことは、容易なことではありません。
従つて、タイムは問題にせず、まず泳げても泳げなくても
も、どんな人でもいいから、とにかく部員を二倍、三倍にも増す
ことを目標としました。その結果現在の部員数は二十四名となり
ました。私の二年生の頃の部員は七名でしたので、この頃と比べ

ますと、実に三倍の人数に増えたわけです。閑古鳥の鳴きそうなプールサイドで細々と練習していた二年の頃に比べると、(しかし私にとって二年生の頃が一番印象に残るのです。)色々の個性をもった部員が増え、合宿も一層楽しくなりました。それに今年から、大量?の女の子が入部し、女子部員は五名となり、男子と同じ練習をさせているにもかかわらず、根を上げないのは、さすがに頑固といおうか、ず太いといおうか、忍耐強いといおうか、とにかく頑張っております。部員が多くなって困るのは、そのため寄付金なるものが増える卒業生だけでしょうが、現役部員のためとあらば、エンゲル係数を高くしてでも喜んで払ってくれるだろうと思います。その節はマネージャーにかわりまして、よろしく願います。

二、河内のゴロンボ物語り

私は神大に入ったら水泳以外の運動をやるかと思っております。それに、高校時代の他校の先輩であるO氏に誘惑され、なんとなく入部した次第でございます。部屋に一步足を踏み入れるとカリキの臭い? 便所の臭い?のようなものが鼻につき、かすかな目まいを生ずるに到った程でございます。何と不潔な所だろうと思つたのもこの時でございます。しかし、半月もたないうちに、すっかり私も洗脳され、この部屋の中で弁当を平気で食べるようになったのでありますから、環境の力は偉大なものでござい

ます。

酒も最初に水泳部で仕込まれたようなものでございます。それまでの私は、ビール瓶を見ただけで、もう酔ったような気分になるぐらいでございました。新入生歓迎コンパでは二級か合成酒かわかりませんが、冷でタップリと飲まされ、ビール・ウィスキーなどと、チャンボンし、ひどく泥酔したものでございます。歓迎コンパでは岩切さん、小林さんに「てめえ、飲んだ。」「一升瓶を持ち続けているんだぞ。手が疲れる。早く飲め。」などとあれこれ理由づけをして、飲ませるのでございます。かわいそうな新入生三人はまるで、子羊のように、「飲メネー。」「飲メネー」と泣くのでございました。それから三宮に連れていかれ、洋酒なるものを初めて口に含んだのでございます。洋酒については「マティニーとはどんなお酒?」「カカオフィズはどんなお酒?」、「ノックアウトとはなぐられて、ひっくり返るものなの?」「サイドカーとは二輪車が走り回るものなの?」「ロックとは岩をかじるものなの?」と聞く程、洋酒については、いやお酒全般については無知でございました。その無知を利用して芳川さんなどは、私に一番軽い洋酒だといって「テキイラ」とかい酒を注文し、私に飲ませたのでございます。私は飲みました。足がふらふらしてきました。しかしまだ意識はあったのでございます。他の新入生は、もう半分寝ている様な顔をしていたのでございます。その時私は永遠に寝ているような顔をしていたのではないかと思つて

ございます。しかし、私はまだしっこく芳川・得丸さんをかからかったらしいでございます。彼らは、子猫のようになしくなつた私を、さらにノックアウトすべく「アブサン」とかいいう、何だかアブ（それは蜂です）が飛んで来る様を注文したのでございます。私は又も飲んでみました。まあ何と奇妙なお酒なんでしょう。口の中が火事の様ではございませんか。流石に先輩方は、私の顔がひん曲るのを見たのでございます。

「オレンヂで割つたてくれ。」などと河内弁でパーテンに告げたのでございます。オレンヂで割つてくれたアブサンを私は飲み干したのでございます。もういけません。私の足は自分自身で制御することが出来ない程になつたのでございます。でも、まだ意識はございました。次にスタンド「夢」とかいふ所に連れていかれました。他の子羊の長谷川・印南君は、すでに夢の中でございますました。私はカウンターの長谷川・印南君は、すでに夢の中でございますました。私はカウンターの明美ちゃん？とかいふ女の人を凝視していたのでございます。彼女が言うことには、「坊や、寝むっちゃ駄目よ、目を閉じては駄目よ。」と優しく言ってくれたのでございます。だから、私は目を一杯開けて、彼女を見ていたのでございます。それを何と勘違いしたのでしょうか。得丸さんは、彼女をとられるものと思つたらしく、私に酒をどんどん飲ませて私をいじめるのございました。私の頃の新生歓迎コンパは以上の様なものでございました。こんな馬鹿なことを書けるのは学生であるからでしょうが、このような行事一つにしても年々

変化しているのでございます。先輩諸兄の頃の話も聞かせて欲しいのでございます。

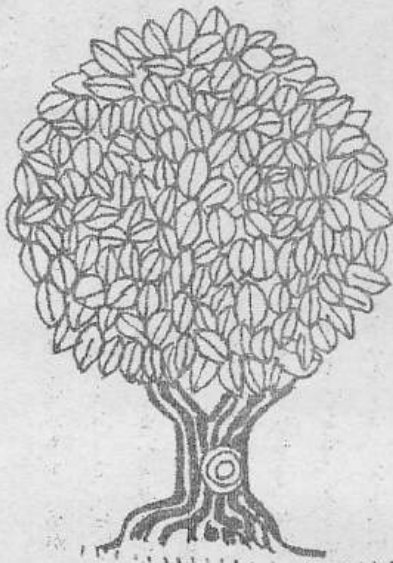
それから「合宿」という体験をもつたのでございます。私が一年生の時は、今の様に女の子がいなくて、男子ばかりでございますました。あの頃の合宿の味は今の新生には味わえないものだと思うのでございます。練習が終つてそして夕食が終つた後の自由時間は、日頃より授業を大切にしている私にとっては、より楽しい為になる授業時間だった様に感じられたのでございます。六甲ハイツへの夜の歩伏前進の実技もあつたのでございます。女の話をするもよし、なにの話をするもよしでございました。女について、女性について少しでも爪の垢ほどでも知ることができたのも毎晩きまつて欠かさず、嫌だというほど、個人的ではございますが、聞かされたオンナ学の集中講義のおかげでございました。「それは何のこと？ それはどういう意味？ そしてそれから？」という自分の飽くこと知らずの質問には、詳しい説明がついたのでございました。時には念が入っていて実験に近いことまで講義に入り込まれたのでございます。この様な「合宿」は現在では、見られないのでございます。しかし、現在の合宿の華やかな楽しい、先輩方には考えられない、そんな雰囲気でございます。部員の個性などが一番よく表われるのは、合宿の機会でございます。例えば、熱血漢なれど酔うて婦女子の衣類をまくりたること多々あり、震度3程度の寝息を発し、藤森という男とイビキのデュエ

ットを奏でる長谷川君、神技バチンコ必勝御免許皆伝、その秘密は？ と問えば、女店員を口説け。などという植西君、バカになや／＼こんなええ男もあるんやでー(ウソ書いたった) 印南君、いかつい顔でも心は優しい、女よ。オミシヤンら目あるのけ／＼の私、母性愛一杯。思わずおばさんと言うてしもたもん。典子ちゃん。笑いだしたら止まらない。カッパエビセン、としちゃん。合宿中かわいいバジヤ姿で、合宿所内を飛びはねている、水泳部の黒一点、まり子ちゃん等々がいるのでございます。まだまだ個性のある楽しい奴が寄り集まっているのでございます。もっと部員について書きたかったのですが、紙面の都合で次回にまわさせて欲しいのでございます。

水泳部におられた先輩方にも「合宿」、「試合」という言葉をお聞きになっただけで、いろいろな事を思い浮かべられると思いますが、私が入部してから現在までの間に、たった三年間で「合宿」というものが著しく変化いたしましたのでございます。

私の思いつくままに、過去の合宿を新入生、下級生の皆にも話すべく、ふり返ってみたいのでございます。

格調高い硬泳の紙面に、この様な低俗なことを書いたことを、許していただければ幸いです。



新入部員紹介

六 甲 太 郎

川 瀬 隆 介

さぼりの名人。彼の話ではシーズン中はいつも体の調子が悪かったそうであるが、その真為は疑わしい。試合にも顔を出さないことがあったが、この時は巷の噂によればオリンピックをテレビで見ようと郷里に帰ったということである。ブレを泳ぐ。入部当時は第一人者になること間違いなしと思われたが、前記のごとくであるので五月の記録が最高タイムと言う結果である。ポロにはキーパーとして期待されている。来年はさぼることなく頑張る欲しいものだ。

経済学部 岐阜県立大垣北高校出身

松 山 玄 彦

数少ない現役入学者のひとり。一番遅れて入部した。ブレを泳ぐ。頑張屋であるので上級生の第一人者をおびやかしたのだが、今年に残念ながら抜くことは出来なかった。来年は最も期待される。体は小さいが頭のきれる男である。酒はほとんど駄目であるが麻雀好きでメキメキ腕を上げている。

経済学部 兵庫県立兵庫高校出身

江 上 浩

フリーを泳ぐ。経験者としては期待はずれであったが、浪人中の太り過ぎも原因していて、今年は調整中だったとの噂もある。酒には強いが女性に関しては噂も立たなかった。最近麻雀に凝っていて実力の向上には目覚ましいものがある。生粋の九州男子で男性的な北九州の方言に人気が集中した。ポロにも意欲を燃やしている。

経営学部 福岡県立小倉高校出身

塩 川 智 公

練習熱心で真面目な性格には共感を覚える。当初はブレを泳いでいたが、後半はバックに精を出している。初心者なのでまだ水泳の勘をつかめない感じであるが、来年は大いに期待される。

経営学部 大阪府立茨木高校出身

上 田 敏 彦

バタの新人として活躍を期待されたが、蓄のうの手術のため、七月から戦列に参加出来ず、未だ二ヶ月近くも入院している状態である。体格のよさは水泳部一で上級生も驚嘆した程である。初心者ながらバタにフリーのショートにと大いに期待される。またハンドボールの経験者なので、ポロにも頑張る欲しい。

経済学部 大阪府立茨木高校出身

天野 孝 司

期待されて入部し、また期待通りに働いた唯一の新入である。フリー陣の得点源であるとともに、四種目を器用にこなす万能選手である。スタイルは抜群で、ニラミのきく目は魅力的であるらしく、女性にはたいへんもてる。おとなしく、人のいい好青年。一度笑い出すと笑いが止まらない。麻雀の実力も抜群である。

農学部 大阪府立住吉高校出身

弓削 公 樹

初心者ながら実力の向上が目覚ましい一人。ロケットターン(タインの時腕を胴体につけたままタインし、腕を前に伸ばさない)の開発者。またけいれんピートも有名である。フリーの長距離を泳ぐ。彼は水泳部のベストドレッサーである。洋服のきこなしや容姿は抜群であるが、ニヤケのある顔には親しみがわく。練習の時には厳しい表情に一変する。

経済学部 大分県立舞鶴高校出身

田 淵 耕

風貌からは一見地方出身の下宿生の感をうけるが、神戸出身の男子であり、その名も高きエリート校で学んできた男である。性格は至って奔放、つきあいやすし。ただ、やるべきことを往々にしてやらないことがあるのが難といえ難。今年にはフリーを泳い

でいて、その水面に固執した泳ぎと、根性と、タフさで着実に記録をのばしていった。来シーズンはバタフライにかけており、そちらの方が期待できそう。学問のことはいいわないうほうがよい水泳部一のニヤリスト。

細 谷 明 夫

水泳部に自称大物で入った大物。一年生の中でも逸人。自言通り、シーズン後半にはめきめき力をつけていった。性格はいたって真面目、潔癖、その上お人好し。このお人好しのために損をすることがしばしば。これは周囲が悪いというべきか。

プレストを泳いでおり、練習中も黙々と泳いでおり、実力上におけるその変身は、競争の激しい他のフリー陣の台風の目となるであろう。傍若無人的な感じもするが、何を考えているのかわからない男。

北 川 敏 行

故郷の福井をこよなく愛し、福井を田舎とでも言おうものなら雑言をあびさせられる。反面、ソフトな感情を内に秘めており、他人の心使いには感心させられることがよくある。少々、ぐちと間句が多いのが玉にきずの男。

現在はプレストを泳いでいるが、高校時代に、ハンドボールの経験があることからポロにも大いなる意欲を燃やしている。練習

にももっとも顔を出している。一見、純情可憐そうな男。

山口 叔子

我が水泳部で最も髪の長い女性が彼女。三人の一年生女子部員の中では、最もおとなしいのではないかと言われている。(否定する者も数多く二名) 今年は身体の調子いささかさえず、シーズン中はあまり泳げなかった。未経験者ではあるが、高校時代にテニスの選手であった彼女。来年が期待される。

昭和二十八年十月七日生 十九才。

教育学部一年 名門御影高校出身

山田 麻理子

誰からも好かれ、誰にでも気軽に話しかける事のできる人。一見物事に対して割り切りが良く、ドライな現代っ子のようだが、その実、古風な所もある。高校から四年間バックを泳いでいるが、四種目ともこなせ、シンクロも楽しむという優雅な女の子。その為か不思議な程よく浮くのには皆目を見張っている。今年記録が延びないとくやんでいたが、冬のトレーニング次第で来年が期待される。

昭和二十九年二月二十一日生 十八才

教育学部 名門御影高校出身

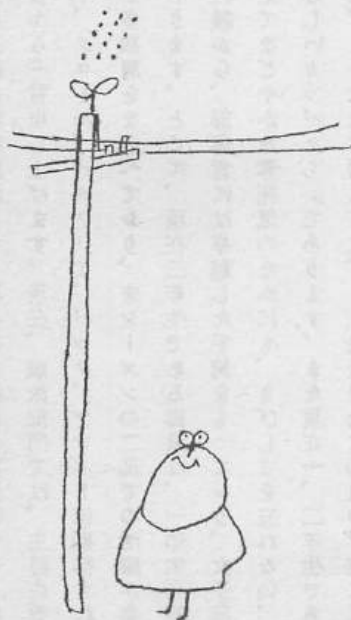
川本 典子

何故か「頼りたい」という欲望を、人に起こさせる彼女。高校時代バスケットボールで鍛えた肉体を大いに生かして、またたく間に四種目征服し、個人メドレーで常に我がクラブの得点源となっている。初心者にしてはのびが早すぎる位で、来年は男子部員諸氏をおびやかすのでは……というウワサ。

昭和二十八年六月九日生

神戸の代表校である神戸高校出身 自称文学部

実は工学部の女傑。



学生後援会会長特別寄稿

会長 家本 博 一

神戸大学水泳部学生後援会 ― 先輩諸兄には、はなはだ耳慣れない団体でありましょう。我後援会は本年四月に発足し、「伝統ある神戸大学水泳部の名に恥じぬ部活動ができるよう、水泳部を側面から援助する」学生のための、学生による、学生の「団体であります。しかしながら、発足以来この半年、学生団体には常である「資金不足と会費不足」のために、不本意な活動に終ったことに対し、我々後援会々員一同、水泳部ならびに先輩諸兄に心からお詫び申し上げなければならぬ。

現在、会員八名 資金二万円強の「ピンボウ」所帯であります。我々後援会一同がこの半年間一貫して持ち続けた「一つの確信」こそが、我後援会を今日まで存続させたものといえましょう。すなわち、その確信とは、先輩諸氏と比べても、我々後援会々員は、水泳部との接触が容易なために、比較的綿密な「お世話」ができるのではないかといいことでもあります。といって、これは、「後援会」への挑戦でも挑発でもなく、むしろ神戸大学水泳部発展の「お側役」にならんとする一部学生の自発的申し出によって組織されていることをご理解いただきたく、微力ではありますが

これからの我後援会の活動にご期待の程願ひ上げます。

前口上はこの程度にして、現在の水泳部の状況につき、我々後援会から一言申し上げます。現在、競泳部門では、主将佐敷定雄以下、クロール、バタフライ、バック、ブレストに期待される部員が多数肩をならべており、来シーズンの二部での活躍が楽しみであります。とくに、現在三年生である部員は、一年生当時の辛い経験から、部運営には卓越した手腕をもっており、女子部員も交えてなごやかな雰囲気の中にも、きびしさを忘れない、すばらしいカップバたちであります。また現在一、二年生である部員は、こと水泳に関しては、我後援会は部員の学業には関与しないことになっている。いまじめな学生さんで、上級生の信頼も厚いようであります。

次にポロ部門では、現在二年生の部員に強力なメンバーがおり、来シーズンは競泳以上に期待がもたれるのではないかと思われます。かくの如き現状において、水泳部に唯一つ欠けている点は、「なにがなんでもやってやろう」という意欲であります。現在では主将以下数人の部員にのみ感じられるだけであり、この点後援会としても、彼らを励まし続ける必要があると思う次第であります。先輩諸兄におかれましても、このような問題はご経験されたことと存じますが、よいアイデアがあればお教え下さるようお願い申し上げます。

最後に、我々後援会々員一同が先輩諸兄に是非お願いしたいこ

とは、少なくとも年一回の九月納会或いは後泳会総会には、皆様全員がおあつまり下さり、現在の水泳部員ならびに我々後援会々員一同に昔話なりともお聞かせ下さり、「タテ」の連絡を密にしていたきたいということがあります。納会などで、「ともに飲み語らい、大声で歌をうたう時」をもちたいものであります。以上 長々と愚文を連ねましたが、これからも、「神戸大学水泳部学生後援会」を何とぞよろしくおねがいたします。

付記

主務の長谷川健君から、「後泳」の原稿を依頼され、当初は我後援会の目的や活動をつぶさに申し上げる予定でありましたが、今回は先輩諸兄への「ごあいさつ」を兼ねて、自己紹介をさせていただきます、きました。

終わりに、我後援会の役員をご紹介させていただきます。

- | | | |
|-----|------|-----------|
| 会長 | 家本博一 | (経済二十二回生) |
| 副会長 | 滝浪和康 | (経営二十二回生) |
| | 浜田高志 | (経済二十二回生) |
| 理事 | 山添仙吉 | (工学二十二回生) |
| | 伊東博文 | (農学二十二回生) |



昭和四十七年度凌泳総会議事録

昭和四十七年度凌泳会総会。五月十四日に六甲台教官食堂で。

一、水泳部新入部員紹介

二、昭和四十六年度一般経過報告

三、昭和四十六年度決算報告

四、昭和四十七年度予算案審議

五、凌泳会会費値上げ問題審議

六、凌泳会役員選出

七、昭和四十七年度行事予定検討

の議題の下に開かれました。議事経過は次の通り。

一、略

二、凌泳会会員相互の連絡、親睦を図る目的で六甲台プールを通

しての交流の他に、毎月第二土曜日に、十、四月は神戸かるも

プール、五、九月は六甲台プールで例会を持って居ります。

他にも随時、ゴルフコンパを企画したり、二月には神鍋スキー

会を催したりしています。

三、四、別記

五、凌泳会会費値上げ問題審議

昭和三十八年度に凌泳会費が、五〇〇円に値上げになり、現在に至って居りますが、その間の諸物価の値上りは著しいものがあります。水泳部総予算に占める凌泳会の援助の割合は、昭和三十九年度二五%、昭和四十一年度三三%、昭和四十四年度三〇%、昭和四十六年度二八%の如く、減少して居りますので、これも増額したく考えます。又、アンケートの結果は、

・値上げ賛成 二十二

内訳 ・十五〇〇円 三 ・十一、〇〇〇円 一

・十一、五〇〇円 一 ・十一、〇〇〇円と五〇〇円

・金額提示なし 四 ・条件つき 二

・幹事に一任 十四 ・値上げ反対 二

(回収率が無理であれば仕方ない。漸次方式(年を経ると共に会費をさげる))

でありました。熱心なる討議の結果、三五〇〇円(年間)に値上げすることに決まりました。御協力願います。

六、凌泳会役員選出

岡田君(新十) 転勤の為、辞意表明があり、これを認め新幹

事に、鈴木正弥君(新十二)が選出されました。

七、略

昭和46年度会計報告

水泳部

収入 部員アルバイト	27,200円	支出 水連登録費	12,000円
凌泳会援助	121,810	合宿費	181,700
会合費	58,990	会合費	102,315
合宿費	143,300	消毒費	16,600
育友会援助	17,018	設備費	17,450
		通信・交通費	3,105
		燃料費	8,000
		試合・練習費	18,500
		雑費	8,140
		次年度繰越	508
計	368,318	計	368,318

昭和46年度会計報告

凌泳会

収入 会費	135,000円	支出 凌泳発行費	36,300円
寄付金	83,000	水泳部援助	121,810
		会合費	14,935
		通信費	23,475
		交通費	21,330
		雑費	150
計	218,000	計	218,000

昭和47年度予算

水泳部

収入 前年度繰越	508円	支出 水連登録費	20,000円
育友会援助	20,000	合宿費	270,000
部員アルバイト	3,000	会合費	50,000
凌泳会援助	165,000	設備費(含燃料費)	25,000
合宿費	200,000	衛生費	20,000
会合費	50,000	交通・通信費	10,000
<hr/>		試合・練習費	60,000
計	465,508	雑費	10,508
		<hr/>	
		計	465,508

昭和47年度予算

凌泳会

収入 凌泳会費	250,000円	支出 凌泳発行費	40,000円
寄付金	50,000	水泳部援助	165,000
<hr/>		会合費	15,000
計	300,000	通信費	30,000
		交通費	30,000
		予備費※	20,000
		<hr/>	
		計	300,000

※ 将来 凌泳会独自の行事に充てたいと考えております。

昭和47年度戦績

☆ 兵庫県学生選手権

S 47.5.28 於 甲南高校プール

種目	出場者	タイム	順位	優勝タイム
400m混継	神戸大	5-11-0	3	5-02-9 (甲南大)
200m個混	藤森一男	2-52-6	5	2-40-6 (関学)
	藤井元洋	3-08-6	6	
100m背	印南修三	1-20-5	2	
	瓜生誠二郎	1-23-2	5	
800m自	天野孝司	12-41-1	5	11-12-2 (甲南大)
100m蝶	佐敷定雄	1-08-8	2	1-08-6 (甲南大)
200m背	印南修三	2-52-8	2	2-48-6 (甲南大)
	瓜生誠二郎	3-03-0	3	
100m自	長谷川健	1-13-2	5	1-01-2 (関学)
200m蝶	佐敷定雄	2-45-0	1	
	藤森一男	3-10-9	3	
400m自	天野孝司	6-04-8	5	5-24-5 (甲南大)
800m継	神戸大	11-09-0	4	10-23-3 (関学)
総合順位 4位 優勝校 甲南大学				

☆ 京阪神三大学対抗水上競技大会 (第21回)

S 47.6.11 於 関西大学プール

種目	出場者	タイム	順位	優勝タイム
400m混継	神戸大	5-11-4	3	4-54-3 (阪大)
400m個混	藤井元洋	7-07-7	5	6-07-6 (阪大)
800m自	天野孝司	12-39-0	6	11-03-7 (阪大)
100m自	佐敷定雄	1-05-8	2	1-04-6 (京大)
200m背	印南修三	2-58-9	2	2-44-4 (阪大)
	瓜生誠二郎	3-06-4	4	
200m個継	藤森一男	2-57-9	4	2-48-0 (京大)

種目	出場者	タイム	順位	優勝タイム
200m 個継	藤井元洋	3-16-9	6	
400m 自	天野孝司	6-08-3	6	5-27-7 (阪大)
200m 蝶	佐敷定雄	2-47-9	1	
	藤森一男	3-18-8	5	
200m 平	渡辺義治	3-18-8	6	2-56-5 (阪大)
800m 継	神戸大	11-06-4	3	10-15-8 (阪大)
総合成績		優勝 大阪大	96点	
		2位 京都大	69点	
		3位 神戸大	35点	

☆ 関西国公立大学水泳競技大会 (第23回)

S 4 7. 7. 1 5 ~ 7. 1 6 於 京大プール

種目	出場者	タイム	順位	優勝タイム
400m 個混	藤森一男	6-19-2	3	6-06-9 (阪大)
400m 混継	神戸大	5-07-4	5	4-37-9 (大府大)
800m 自	天野孝司	11-36-6	6	10-32-8 (大府大)
100m 蝶	佐敷定雄	1-18-0	2	1-07-5 (大府大)
200m 自	紫垣和男		7	2-23-1 (大府大)
100m 自	印南修三		7	1-09-0 (大府大)
400m 継	神戸大	4-38-3	5	4-16-6 (京大)
200m 個混	藤森一男	2-51-4	4	2-43-5 (京大)
400m 自	天野孝司		7	5-02-3 (大府大)
200m 蝶	佐敷定雄	2-43-0	2	2-39-5 (大府大)
100m 自	紫垣和男	1-07-7	7	1-03-7 (京大)
200m 背	印南修三		8	2-29-8 (大府大)
	瓜生誠二郎		7	
800m 継	神戸大	10-23-8	4	9-40-5 (大府大)
総合成績		神戸大	5位 (25点)	
優勝		大阪府大 (115点)		[以上、男子の部]

☆ 関西国公立大学水泳競技大会(第23回)

(女子の部)

種目	出場者	タイム	順位	優勝タイム
100m 背	山田麻理子	1-44-6	3	1-37-0(京教大)
50m 自	正井康子	38-9	3	35-5(京教大)
200m 平	川本典子	2-08-1	5	1-34-2(京大)
50m 背	山田麻理子	46-4	3	43-9(奈良教)
100m 自	正井康子	1-32-8	4	1-22-7(京教大)
	藤井陽子	1-38-1	6	
200m 継	神戸大	2-48-9	2	2-31-8(奈良教)
総合成績 神戸大 3位(35点)				
優勝校 京教大(65点)				

☆ 旧三商大戦(第40回)

S47.7.23 於市大プール

種目	出場者	タイム	順位	優勝タイム
400m 混継	神戸大	5-09-7	2	5-00-8(市大)
800m 自	天野孝司	11-35-7	3	11-18-4(市大)
	藤井元洋	13-08-5	5	
200m 平	渡辺義治	3-16-3	4	2-57-8(市大)
	川瀬隆介	3-22-8	5	
200m 個混	藤森一男	2-51-2	1	
	藤井元洋	3-09-0	4	
100m 自	佐敷定雄	1-05-4	2	1-14-5(市大)
	紫垣和男	1-06-7	4	
400m 自	天野孝司	5-40-3	3	5-22-0(市大)
	長谷川健	6-10-5	5	
200m 蝶	佐敷定雄	2-54-3	1	
	藤森一男	3-06-0	2	
200m 背	印南修三	2-57-3	3	2-49-8(市大)

種目	出場者	タイム	順位	優勝タイム
200m 背	瓜生 誠二郎	2-57-0	2	
800m 継	神戸大	10-16-0	1	
OBリレー	神戸大		1	
総合順位 1位 市大 2位 神戸大 3位 一橋大				
水球 一橋大：4-3：神戸大				
一橋大：4-3：市大				
神戸大：5-3：市大				

☆ 市 大 戦 (第53回)

S47.8.20 於 六甲台プール

種目	出場者	タイム	順位	優勝タイム
400m 混継	神戸大	4-59-0	1	
800m 自	天野 孝司	12-02-4	2	11-21-8 (市大)
	植西 勝	12-28-8	4	
	江上 浩	13-13-0	5	
200m 個混	藤森 一男	2-50-6	1	
	瓜生 誠郎	3-05-6	4	
	岡本 優	3-25-7	6	
100m 自	佐敷 定雄	1-03-1	1	
	紫垣 和男	1-06-2	3	
	長谷川 健	1-11-5	5	
200m 平	渡辺 義治	3-10-4	2	3-04-2 (市大)
	松山 玄彦	3-14-2	4	
	北川 敏彦	3-27-4	5	
200m 蝶	佐敷 定雄	3-00-0	1	
	藤森 一男	3-06-5	2	
	印南 修三	3-15-6	3	
400m 自	天野 孝司	5-26-0	1	
	紫垣 和男	5-47-0	3	

種目	出場者	タイム	順位	優勝タイム
400m 自	長谷川 健	5-58-4	6	
200m 背	瓜生 誠二郎	2-54-0	2	2-44-2 (市大)
	印南 修三	3-02-0	3	
	植西 勝	3-12-0	4	
800m 継	神戸大	10-24-3	1	
総合順位 優勝：神戸大(97点) 2位：市大(76点)				
水球 市大：4-3：神大				

☆ 関西学生選手権水上競技大会(第46回)

S 47.8.30~8.31 於 大阪プール

種目	出場者	タイム	順位	優勝タイム
800m 自	天野 孝司	11-46-5	3	10-44-9 (関大2)
100m 平	渡辺 義治	1-25-2	7	1-19-7 (立命館)
200m 自	紫垣 和男	2-36-6	5	2-28-6 (京教)
	長谷川 健	2-44-6	7	
100m 蝶	佐敷 定雄	1-07-6	1	
100m 背	瓜生 誠二郎	1-21-6	5	1-14-5 (大経大)
	印南 修三	1-21-5	4	
200m 個混	藤森 一男	2-53-4	7	2-49-0 (京教大)
200m 平	渡辺 義治	3-09-9	6	2-53-7 (大工大)
400m 自	天野 孝司	5-30-0	3	5-05-1 (関大2)
200m 蝶	佐敷 定雄	2-41-8	2	2-38-1 (和 大)
	藤森 一男	3-02-8	3	
100m 自	紫垣 和男	1-06-9	6	1-03-8 (立命館)
200m 背	印南 修三	2-57-0	4	2-52-8 (大工大)
	瓜生 誠二郎	2-53-6	2	
800m 継	神戸大	10-24-4	1	
総合優勝 (Ⅲ部) 神戸大：48点				
第2位 大工大：47点 [以上男子の部]				

☆ 関西女子学生選手権水上競技大会(第7回) (女子の部)

S 4 7.8.30~8.31 於 大阪プール

種目	出場者	タイム	順位	優勝タイム
200m 個混	川本典子	3-56-6	6	2-50-6(天理大)
200m 背	山田麻理子	3-47-0	8	3-01-0(天理大)
100m 蝶	川本典子	1-52-6	7	1-18-4(天理大)

☆ 第10回近畿地区国立大学体育大会

S 4 7.9.1~9.2 於 阪大プール

種目	出場者	タイム	順位	優勝タイム
800m 自	天野孝司	11-27-6	6	10-20-7(阪大)
100m 背	印南修三	1-18-5	5	1-11-4(阪大)
	瓜生誠二郎	1-20-7	7	
200m 継	神戸大	2-00-6	6	1-50-9(京大)
400m 混継	神戸大	5-06-6	6	4-44-4(阪大)
200m 蝶	藤森一男	2-53-2	2	2-37-2(和歌大)
200m 背	印南修三	2-50-6	6	2-36-7(阪大)
	瓜生誠二郎	2-52-7	7	
800m 継	神戸大	10-14-5	5	9-30-8(阪大)

総合順位 6位 優勝校:大阪大 (以上男子)

100m 自	正井康子	1-29-6	6	1-18-5(京大)
50m 背	山田麻理子	-47-4	4	41-6(京教大)
200m 継	神戸大	2-46-4	4	2-22-6(京教大)
100m 平	川本典子	1-50-5	5	1-29-7(京大)
100m 背	山田麻理子	1-46-4	4	1-29-7(京教大)
50m 自	正井康子	-38-3	3	36-0(京教大)
50m 蝶	川本典子	-48-3	3	36-1(京教大)
200m 混継	神戸大	3-12-5	5	2-41-5(京教大)
400m 継	神戸大	6-16-4	4	5-24-5(京教大)

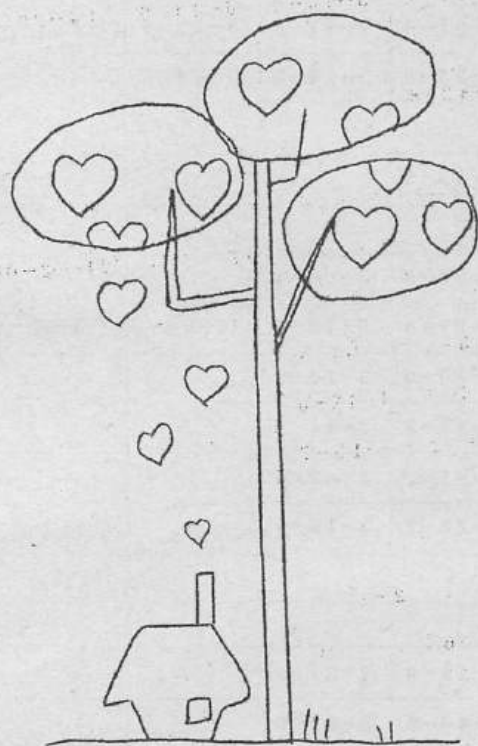
総合順位 4位 優勝校:京教大 (以上女子)

現役部員ベストタイム表

1972年9月15日現在

氏名	学年	種目	100m	200m	400m	800m
藤井元洋	4	フリー	1-13-0	2-41-0	5-46-2	12-15-0
岡本優	4	フリー	1-11-4	2-50-2	6-10-8	13-13-0
佐敷定雄	3	フリー	1-03-0	2-27-6	5-24-2	11-33-5
長谷川健	3	フリー	1-09-0	2-36-6	5-49-2	12-56-0
植西勝	3	フリー	1-18-0	2-49-0	6-03-0	12-28-0
正井康子	3	フリー	1-27-7	3-31-4	7-26-0	15-39-2
紫垣和男	2	フリー	1-05-8	2-31-8	5-45-3	12-12-2
大曲芳郎	2	フリー	1-13-6	2-55-2	6-07-0	
藤井陽子	2	フリー	1-32-4	3-39-0		
江上浩	1	フリー	1-17-0	2-54-0	6-22-0	13-13-0
弓削公樹	1	フリー	1-24-0		6-54-0	14-21-0
天野孝司	1	フリー	1-07-0	2-31-8	5-25-8	11-27-0
田淵耕	1	フリー	1-23-8	3-14-8	6-44-0	14-29-7
上田	1	フリー				
川本典子	1	フリー	1-33-8			
渡辺義治	2	ブレスト	1-22-8	3-08-4		
松山玄彦	1	ブレスト	1-27-6	3-10-8	(7-05-0)	(14-32-0)
川瀬	1	ブレスト	1-30-0	3-16-0		
塩川	1	ブレスト	1-53-8	3-57-6		
細谷	1	ブレスト	1-45-2	3-42-0		
北川	1	ブレスト	1-28-2	3-19-7		
印南修三	3	バック				
瓜生誠二郎	2	バック	1-19-0	2-52-0		
山田麻理子	1	バック	1-44-6	3-47-0		
山口叔子	1	バック				

氏名	学年	種目	100m	200m	400m	800m
佐敷定雄	3	バタフライ	1-05-2	2-38-0		
藤森一男	2	バタフライ	1-16-8	2-53-4		
川本典子	1	バタフライ	1-52-6			
佐敷定雄	3	個人メドレー		2-50-2		
藤森一男	2	個人メドレー		2-50-4		
川本典子	1	個人メドレー		3-54-4		



凌 泳 会 々 則

第一章 総 則

第一条 (名称) 本会は凌泳会と称する。

第二条 (事務所) 本会は事務所を神戸市灘区六甲台町・神戸大学に置くこととし、宛名は同大学学生課気付「凌泳会」とする。

第三条 (目的) 本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。

第四条 (事業) 本会は前条の目的を達成する為に左記の事業を行なう。

一、会誌「凌泳」の発行

二、会員相互の連絡

三、定例総会及び各種の親睦会合

四、神戸大学水泳部発展の為の指導及び援助

五、その他、本会の目的を達成するに必要な事項

第五条 (会則の改廃) 本会則の制定及び変更は総会の決議によって行なう。

第二章 会 員

第六条 (会員) 本会の会員を分けて正会員、特別会員及び在学会員とする。

第七条 (正会員) 正会員とは次のものを云う。

国立神戸高等商業学校 国立神戸商業大学 神戸経済大学 神戸大学
以上の諸学校に於て、在学中水泳部に所属したもの。

第八条 (特別会員) 特別会員とは次のものを云う。

一、前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であった者及び現在ある者。

第九條（在学会員）

二、その他、総会の決議によって推薦した者。
在学会員とは次のものを云う。

現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者。

第十條（会費）

正会員は会費として年額一五〇〇円を当会へ納入する。

第三章 役員

第十一條（役員）

本会には左記の役員を置く。

会長	一名
副会長	一名
幹事長	一名
本部幹事	若干名
支部幹事	若干名
会計幹事	二名以内

第十二條（改選）

役員は改選は総会の決議によって行なう。

第十三條（任期）

役員は任期は一年とし再選を妨げない。

第十四條（会長）

会長は本会を代表し且つ統轄する。

第十五條（副会長）

副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第十六條（幹事長及び本部幹事）

幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し総括的会務の執行に当る。

第十七條（支部幹事）

支部幹事は各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

第十八條（会計幹事）

会計幹事は会計の監査に当る。

第十九條（役員会）

会長、幹事長、本部幹事を以って、役員会を組織し、役員は決議に従い会務の運営に当る。

第二十條（招集）

役員会は会長これを招集する。

第四章 総 会

第二十一条（招 集） 総会は少くとも二週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以て、会長これを招集する。

第二十二条（時 期） 総会は毎年五月に開催するものとし、臨時総会は必要に応じて招集する。

第二十三条（議 決） 総会の決議は出席会員の過半数を以て決する。

但し、当該議事につき、書面を以てあらかじめ意志を表示したものは出席とみなす。

第五章 会 計

第二十四条（経 理） 本会の経理は、会費、寄附金及びその他の収入によって賄う。

第二十五条（決 算） 本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告し、その承認を受ける。

第二十六条（期 間） 本会の会計年度は毎年四月一日より三月三十一日までとする。

第六章 雑 則

第二十七条 本会則は昭和三十九年五月十六日より発効する。

以 上

凌 泳 会 々 員 名 簿

編集後記

六甲台の銀杏の木々がすっかり色づいて、秋深しを思わせる今日この頃です。渡泳第二〇号、お届けします。毎年のように繰り返される言葉『発行が遅れてすみません』を、私も書かねばならない様です。

遅れてすみません。先輩方の便り、原稿を多数期待しております。

付記

学生後援会会長の家本博一さんは、以前神戸大学経済学部在籍されていた、家本教授の御息です。

赤とんぼ記

47年10月22日

